

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2940 号	氏 名	大久保 圭子
論文審査担当者	主査 青木 淳 副査 泉崎 雅彦 副査 鈴木 洋		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>高齢の慢性心不全患者においては入院の長期化や再入院率の増加が問題となっている。しかし、同一症例における心臓リハビリテーション（心リハ）の効果を検討した報告はない。本研究は、入退院を繰り返す慢性心不全高齢患者に対して入院中の心リハの介入により、日常生活活動能力が向上し、入院日数の短縮と再入院の回避が得られるかを検討した。入院日数は心リハ介入時と非介入時で同等であったが、退院時 Barthel Index は心リハ介入時 80.2 ± 14.5、非介入時 73.7 ± 18.9 と有意に介入時が高値であった。Kaplan-Meier 生存分析では心不全再入院死亡率および心不全以外も含む再入院死亡率の両者とも心リハ介入時で明らかにイベント発生を回避できた。</p> <p>これらの結果は、入退院を繰り返す慢性心不全高齢患者における入院中の心リハが退院時の ADL を向上させ、早期の再入院を回避できることが示されており、学術上価値があり、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名： 慢性心不全高齢患者における入院中の心臓リハビリテーションによる再入院回避効果</p> <p>掲載雑誌名：心臓リハビリテーション 21 巻（号数は未定）2016 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)